

別記様式第 6 号 (第 16 条第 3 項, 第 25 条第 3 項関係)

論文審査の結果の要旨

博士の専攻分野の名称	博士 ( 医学 )	氏名	瀬尾信吾
学位授与の条件	学位規則第 4 条第①・2 項該当		
論文題目 Optimal lymph node dissection in pancreatic tail cancer (膵尾部癌の至適郭清範囲に関する検討)			
論文審査担当者			
主 査	教授 大段秀樹	印	
審査委員	教授 檜井孝夫		
審査委員	講師 三木大樹		
〔論文審査の結果の要旨〕			
<p>膵癌は最も予後不良な悪性腫瘍の 1 つであり、本邦、欧州、米国のいずれにおいても癌関連死亡原因の第 4 位となっている。根治が期待できる唯一の治療法は外科手術であり、左側膵癌 (膵体部+膵尾部癌) に対しては、尾側膵切除術 (Distal Pancreatectomy: DP) と領域リンパ節郭清が標準的に実施されている。根治的手術の達成のためには、至適な領域リンパ節郭清が不可欠であるが、日本、米国、欧州の規約毎に、左側膵癌の定義や推奨されている郭清リンパ節範囲が異なり混乱の原因となっている。本研究は、膵体尾部癌手術における各領域リンパ節への転移頻度を分析することにより、膵尾部癌における至適な郭清リンパ節範囲を設定することを目的とした研究である。</p> <p>2006 年 2 月から 2021 年 3 月までの間に DP を受けた切除可能膵癌患者の臨床データを後方視的に解析した。領域リンパ節は日本膵臓学会の取扱い規約に則ってそれぞれ、Station 7 (左胃動脈周囲)、Station 8 (総肝動脈周囲)、Station 9 (腹腔動脈周囲)、Station 10 (脾門部)、Station 11 (脾動脈周囲)、Station 14 (上腸間膜動脈周囲)、Station 18 (膵下縁部) と定義した。対象患者を腫瘍部位により膵尾部癌患者 (Pt 群; 大動脈左縁より腫瘍の近位端が左側にあるもの) と膵体部または膵体尾部癌患者 (non-Pt 群: 大動脈左縁より腫瘍の近位端が右側にあるもの) の 2 群に分けて転移リンパ節の有無を検討した。</p> <p>96 例の対象患者が、61 例 (64%) が Pt 群、残りの 35 例 (36%) が non-Pt 群へと割り付けられた。両群の背景因子の比較では、年齢、性別、CA19-9 値、術前化学療法の有無、手術時間、出血量、輸血の有無、術後膵臓瘻の発生頻度について、両群間に統計的有意差はなかった。術後病理所見では、腫瘍径の中央値が Pt 群 (25mm) で non-Pt 群 (18mm) より有意に大きかったが (P = 0.028)、組織型、所属リンパ節転移の割合、R0 切除率について、両群間に有意差は認められなかった。Pt 群 対 non-Pt 群における各領域リンパ節への転移陽性者数はそれぞれ、Station 7: 0 (0%) 対 1 (3%)、Station 8: 0 (0%) 対 4 (12%)、Station 9: 0 (0%) 対 2 (6%)、Station 10: 4 (7%) 対 1 (3%)、Station 11: 18 (30%) 対 18 (51%)、Station 14: 2 (4%) 対 3 (9%)、Station 18: 10 (17%) 対 6 (17%) であり、non-Pt 群ではすべての領域リンパ節に対して転移陽性者が見られたのに対し、Pt 群では Station 7, 8, 9 へ転移陽性患者は認めなかった。</p> <p>また Pt 群 対 non-Pt 群における各領域リンパ節への総転移リンパ節個数についてはそれぞれ、Station 7: 0 (0%) 対 1 (2%)、Station 8: 0 (0%) 対 6 (8%)、Station 9: 0 (0%) 対 2 (4%)、Station 10: 7 (5%) 対 2 (3%)、Station 11: 51 (14%) 対 36 (17%)、Station 14: 2 (1%) 対 5 (6%)、Station 18: 16 (7%) 対 13 (10%) であった。Pt 群においては、Station 7, 8, 9 にはそれぞれ 92, 157, 98 個のリンパ節が郭清されていたが、転移陽性リンパ節は認められなかった。</p>			

以上の結果より、腭尾部癌において Station7,8 および 9 への転移は認められず、腭尾部に限局した切除可能腭癌に対する DP においては、Station 7,8,9 のリンパ節郭清の必要性は乏しい可能性を示唆した。本論文は、至適な郭清リンパ節範囲を設定する上で、今後の国内外でのガイドラインに対しても影響を及ぼす可能性のある臨床的意義のある研究である。よって審査委員会委員全員は、本論文が瀬尾信吾に博士（医学）の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。